

古河市認定農業者畜産部会による 耕畜連携の取組

近年、環境に配慮した持続可能な畜産経営が求められており、古河市認定農業者畜産部会では、堆肥の利用促進および遊休農地等の有効利用を目指した取り組みが行われています。坂東普及センターでは、地域と共存する畜産の振興と堆肥を活用した土づくりを推進しています。

使いやすさをプラスした 古河市堆肥利用マップ

古河市と連携して、「堆肥利用マップ」の作成や施肥技術の情報提供を行い、畜産部会と露地野菜部会のマッチングを支援してきました。更に、平成22年度からは市の単独事業（堆肥生産流通奨励事業）も開始され、古河市内の認定農業者23戸が堆肥販売を開始するなど、1,096tの地域内流通が行われました。



堆肥の情報を農家に分かりやすく表示



水田へマニユアスプレッダーで堆肥散布

豚ぷん堆肥を利用した 飼料用米の栽培支援

豚ぷん堆肥を用いた飼料用米の栽培支援を行いました。また、畜産農家および普通作農家を対象とした飼料用米の栽培および家畜への給与についての勉強会を開催し、地域内流通の支援を行いました。その結果、地域内の養豚農家へ40tの飼料用米の流通が開始されました。

遊休農地を繁殖和牛放牧で再活用

肉用牛研究所と連携し、簡易電気牧柵を利用した繁殖和牛の放牧支援を行いました。また、放牧地での水やりや係留等の管理作業の省力化を図るため、ウォーターカップおよび移動式のスタンションの設置を支援しました。その結果、2.7haの遊休農地の再活用が行われ、地域と共存した畜産経営が展開されています。



給水および係留作業の省力化